看護学臨地実習で実習指導者がとらえた実習指導のやりがい

Clinical teacher had a sense of achievement in nursing clinical training for students

佐々木満智子、中谷信江、井上真奈美、藤本美由紀、家入裕子、白蓋真弥、丹　佳子
Michiko Sasaki, Nobue Nakatani, Manami Inoue, Miyuki Fujimoto,
Yuko Ieiri, Maya Shirafuta, Yoshiko Tan

要旨

本研究は、兼任の 13 名の実習指導者に対し半構成的面接を行った中から、実習指導の「やりがい」について分析を行った。その結果、【学生の実習の様子から学びや成長を感じる】【学生が主体的に実習に取り組んでいる姿をみる】【学生が達成感や満足感を得て実習を終える姿をみる】【実習指導の成果が就職につながると感じる】といった「学生の変化や成長」に関わるやりがい、【実習指導者が看護師を目指したころの気持ちを思い出す】【実習指導者自身が学び直す機会となる】【実習指導を振り返り指導の方法がわかる】といった「実習指導者自身の成長」に関するやりがい、【患者に良い変化が生じたと感じる】といった「患者への良い影響」に関するやりがい、【実習指導を通じて身につけた様々な教育的な関わり方は新人看護師やスタッフ教育に活かせる】【病棟看護師のケアに変化を生じさせる期待を感じる】といった「看護の質の向上」に関するやりがいを感じていることが明らかになった。

キーワード：看護学臨地実習、実習指導、やりがい
key words：nursing clinical training, clinical teacher, achievement

Ⅰ．序論

看護基礎教育における臨地実習は、知識（理論）と実践の統合を学ぶ授業であり、看護実践能力を習得するための重要な科目と位置づけられている[1)]。この臨地実習において、教員と同様に重要な役割を果たすのが病院の看護単位（病棟等）で任命されている「臨地実習指導者（以下、実習指導者とする）」である。実習指導者は学生の看護実践の指導や学習意欲向上への働きかけといった学生に直接関わる業務のみならず、実習指導の準備、実習環境整備、病棟スタッフや教員との連携等、様々な役割が期待されている[2)]。しかし、多くの実習指導者は兼任である（看護師としての役割と共に、実習指導者としての役割を同時に求められる）ため、業務との両立が困難[3)]、多忙な業務の中での学生指導に対する負担感[4)]などから、とまどい[5)]や不安[6)]を感じている。その中でも、特に病棟看護師の実習指導に対する意欲向上や協力体制の構築といった人的環境調整は困難感が高い[7)、8)]。実習指導者向けテキスト[9)~11)]をみても、指導案作成や教育技法についての説明はあるが、人的環境調整についての記述は見当たらず、多くの実習指導者は独自の工夫をしているのが現状であり[12)]、人的環境調整の方略、つまり病棟看護師が実習指導を効果的に行えるよう支援する方略を見出す必要がある。

そこで本研究では、人的環境調整の方略を検討するため、実習指導の「やりがい」に注目し、実習指導者の語りから明らかにすることとした。「やりがい」とは、一般的には、「物事をするに当たっての充実感や手ごたえ、気持ちの張り合いにともなう価値」を指す。それを実習指導に関わる実習指導者以外の看護師に伝えることにより、看護師は困難感や負担感といった実習指導のネガティブな側面だけでなく、実習指導の意義や価値といったポジティブな側面に気づき、役割を再認識することができる。ひいては、実習指導に関わる一人一人の看護師の意識の変化により、実習指導者が人的環境を整える一助となると考えた。

Ⅱ．用語の定義

1）実習指導者：所属施設（病院）において「実習指導者」と任命された看護師。
2）兼任の実習指導者：通常の業務も行いながら、病棟で実習指導者としての役割を担って学生指導を担当する看護師。
3）病棟看護師：看護師長や管理者も含む病棟の看護師全員。
4）やりがい：実習指導を通して得られる充実感や手ごたえ、気持ちの張り合いにともなう価値。

Ⅲ．研究方法

1．調査方法

調査対象者は、承諾を得た2ヵ所の病院で、1年以内に実習指導者として実習指導に関わった経験のある看護師である。

調査対象者に対して、半構成的面接を2013年8月～9月に実施した。看護師の属性として、職位、看護師経験年数、実習指導者経験年数、臨床指導体制、臨床指導に関する研修の参加の有無などを質問紙で調査した後、インタビューを行った。インタビューガイドは、「実習指導者として行ったこと」「実習指導者として役割を果たす中で大変だな、困ったなと感じた経験」「大変な中で実習指導者として行った工夫」「実習指導者としての役割を果たす中でやりがいを感じた経験」「実習指導者として教員とどのような連携をとっているか」とした。全体のインタビュー時間は平均71分であった。録音データから逐語録を作成し、「実習指導者としての役割を果たす中でやりがいを感じた経験」の部分で語られた内容の中から実習指導上の「やりがい」を表現している単語や文章を抽出した。抽出した内容（コード）から、類似した意味の内容（コード）ごとにカテゴリー化（サブカテゴリー）し、さらに上位概念カテゴリー（カテゴリー）を作成した。分析結果の厳密性については、共同研究者間で同意が得られるまで結果を検討した。

2．倫理的配慮

対象者が所属する看護部に口頭と文書にて研究の目的や概要を説明し同意を得た。また実習指導者には、自由意志に基づき、同意しても途中で断ることができること、また断ることで不利益を被ることはないこと、研究同意後や研究終了後にも、同意の撤回が出来ること、得られたデータは匿名化し、本研究以外には使用しないこと、研究成果は学会等で発表することをについて文書と口頭で説明し書面にて同意を得た。面接は勤務時間などに支障を来たさないよう、研究協力者の都合のよい日時に設定した。面接場所はプライバシーを保持できる個室でおこなった。本調査は、山口県立大学生命倫理委員会の承認（承認番号25-14）を得た。

Ⅲ．結果

1．対象者の概要

13名は全員女性、年齢は平均35.5 ± 7.18歳、看護師経験年数は平均13.3 ± 6.69年、実習指導者としての経験年数は平均3.2 ± 1.98年であった。実習指導者としての研修は院内で受講した人が8名、院外の長期にわたる実習指導者講習などを受講した人は3名であった。また全員兼任で実習指導を行っていた。

2．実習指導のやりがい（表1）

兼任の実習指導のやりがいについては、34コードから、17サブカテゴリー、10カテゴリー【学生の実習の様子から学びや成長を感じる】【学生が主体的に実習に取り組んでいる姿をみる】【学生が達成感や満足感を得て実習を終える姿をみる】【実習指導の成果が就職につながると感じる】【実習指導者が看護師を目指したころの気持ちを思い出す】【実習指導者自身が学び直す機会となる】【実習指導者が実習の指導方法が分かる】【実習指導を通じて身につけた様々な教育的な関わり方は新人看護師やスタッフ教育に活かせる】【患者に良い変化が生じたと感じる】【病棟看護師のケアに変化を生じさせる期待を感じる】が抽出された。以下カテゴリーを【　】サブカテゴリーを〈　〉に示す。

1）学生の変化に対するやりがい

実習指導者は、学生と関わる中で〈学生がのびのび楽しそうに実習する姿をみる〉や〈学生が積極的に実習する姿をみる〉など、【学生が主体的に実習に取り組んでいる姿をみる】ことでやりがいを感じていた。さらに、臨地実習を通して〈学生の学びを感じる〉ことや〈学生の実習への取り組みが変化していく〉を実習指導者自身が捉えるとともに、患者や病棟看護師から〈学生の頑張りを他者から認められる〉といった「他者」からの評価を通じて、【学

生の実習の様子から学びや成長を感じる】ことにやりがいを感じていた。また、〈学生の満足感を感じる〉や〈学生の達成感を感じる〉など、【学生が達成感や満足感を得て実習を終える姿をみる】ことや【実習指導の成果が就職につながると感じる】ことにもやりがいを感じていた。

2）実習指導者自身に対するやりがい

実習指導を通して〈実習指導者自身が初心にもどる〉や〈実習指導者が新鮮な気持ちを思い出す〉など、【実習指導者が看護師を目指したころの気持ちを思い出す】ことでやりがいを感じていた。また、〈実習指導者が自身の指導を振り返る〉ことや思考過程を大切にした質問の仕方など【実習指導者が実習の指導方法が分かる】ことや【実習指導者自身が学び直す機会となる】ことは、実習指導者のやりがいになっていた。また実習指導における学生との関わりは、〈新人看護師への接し方に活かせる〉や〈スタッフ教育に活かせる〉など、【実習指導を通じて身につけた様々な教育的な関わり方は新人看護師やスタッフ教育に活かせる】ことにやりがいを感じていた。

3）看護の変化に対するやりがい

実習指導者は、学生が実施した看護援助により患者が回復する過程に接し、【患者によい変化を生じたと感じる】ことをやりがいと感じていた。また、学生が行うケアに対して【病棟看護師のケアに変化を生じさせる期待を感じる】ことができ、やりがいにつながっていた。

Ⅳ．考察

1．学生の変化と自己の成長

実習指導者は、指導による「学生のよい変化」と「自己の成長」を実習指導のやりがいと捉えていた。これらは、金子ら[13]や滝口ら[14]が行った研究でも報告されており、多くの人が感じることができる実習指導の「やりがい」であるといえる。川野[15]は、指導者の動機付けが高まるきっかけの一つとして「学生が成長したこと」「自分が成長したこと」をあげている。これまで兼任の実習指導者の困難感が多く報告されているが、実習に関わる看護師がこの「やりがい」を感じることができれば、病棟看護師の実習指導に対する意欲向上も期待できるのではないかと考える。実習指導者が病棟における人的環境調整を行う際には、「学生のよい変化」と「自己の成長」は実感しやすい「やりがい」であり、実習指導への「意欲向上に寄与する」ことを意識して伝えていくことが重要であると考える。

2．看護の質の向上

【患者に良い変化が生じたと感じる】と【病棟看護師のケアに変化を生じさせる期待を感じる】2つのカテゴリーにみられるように、実習指導者は「学生や指導者自身の変化」だけではなく、「患者へのよい影響」および「看護の質の向上」に関する「やりがい」も感じていた。これは「看護管理者がとらえる実習受け入れの利点」[16]と一致しており、看護管理者が意図する実習受け入れの成果が得られていると解釈することもできる。

しかし、栗谷ら[17]の調査によると、500名近い看護師を対象に「看護学実習を受け入れることに対する捉え方」を質問紙で調査した結果、「看護の質の向上」の感じ方には属性による違いがあった。「実習を受け入れることで看護の質が向上する」の設問に全体の60%以上の者が「はい」と答えた。しかし、「役職者である」、「実習指導経験がある」人はそうでない人と比較して、「はい」と回答した割合が高く有意差が認められた。このことから、「看護の質の向上」は、役職者や実習指導者が感じやすい「やりがい」であり、実習指導経験の少ない人には感じにくい部分であるともいえる。

「患者へのよい影響」および「看護の質の向上」に関する「やりがい」を、人的環境調整に活用するには、実習指導経験者を増やす[17]ことも一つの方策であると思われるが、「やりがい」を感じにくい「実習指導経験が少ない看護師」に対して、「やりがい」を感じることができるような働きかけが重要であると考える。中谷ら[18]の「実習指導が効果的に行われるための臨床指導者の工夫」に関する研究によると、「担当看護師の実習指導を観察し、よい実習指導を病棟看護師で共有する」工夫が見いだされており、「熱心に学生指導を行っている看護師を認める」「感謝の言葉を伝える」「よい指導を病棟看護師全員で共有する」ことを通じて、実習指導を「価値あるもの」として病棟に根付かせるための行動が報告されている。実習指導者がこのような働きかけをすることで、「患者へのよい影響」や「看護の質の向上」に関する「やりがい」を感じやすくなり、より効果的な実習指導を行うための人的環境調整

表１　実習指導のやりがい

カテゴリー	サブカテゴリ	コード
学生の実習の様子から学びや成長を感じる	学生の実習への取り組みが変化していく	学生の実習への取り組む態度が変化していく
		学生が積極的に行動し表情に変化がみられる
		学生の頑張りが実感できる
		学生の実習記録に工夫が見られる
		学生の報告内容に変化が見られる
	学生の学びを感じる	学生がこの実習で何かをつかんだと手ごたえを感じる
		学生がまとめの会や反省会で色々学びを得てくれたと実感できる
		学生が試行錯誤しながら看護計画を実施したことを感じる
	学生の頑張りを他者から認められる	病棟看護師から学生の成長を聞く
		患者さんから学生に対する良い反応を聞く
学生が主体的に実習に取り組んでいる姿をみる	学生がのびのび楽しそうに実習する姿をみる	学生がのびのびと実習している姿をみる
		学生が楽しそうに実習する姿をみる
	学生が積極的に実習する姿をみる	学生がケアに積極的に参加する様子を見る
		学生が真摯に学ぶ姿をみる
学生が達成感や満足感を得て実習を終える姿をみる	学生の満足感を感じる	学生がまたこの実習に来たいという反応がある
		実習の終わりに学生から感謝される
		学生から看護の楽しさを知ったいう反応が励みになる
	学生の達成感を感じる	実習指導者が学生に実習の成果やできたことを伝える
		学生が直接患者さんから感謝される
実習指導の成果が就職につながると感じる	実習指導の成果が就職につながると感じる	就職した人に実習指導によって就職を決めたと言われ励みになる
実習指導者が看護師を目指したころの気持ちを思い出す	実習指導者自身が初心にもどる	初心にもどる
		頑張ろうという気持ちになる
	実習指導者が新鮮な気持ちを思い出す	自分が忘れていた素直な気持ちに戻れる
		学生の新鮮な気持ちに刺激をうける
実習指導者自身が学び直す機会となる	実習指導者が学び直す機会となる	基本を調べなおし勉強をする
		病棟勉強会の開催機会となる
実習指導者が実習の指導方法が分かる	実習指導者が指導の方法が分かる	思考過程を大切にした質問の仕方が学べた
	実習指導者が自身の指導を振りかえる	説明がうまくできていない自分の指導を振りかえる
		自分の指導を振り返るきっかけとなる
実習指導を通じて身につけた様々な教育的な関わり方は新人看護師やスタッフ教育に活かせる	学生との関わりは新人看護師への接し方に活かせる	学生との関わりは新人看護師への接し方の参考にできる
	学生指導がスタッフ教育に活かせる	学生指導で身につけたことはスタッフ教育にも活かせる
患者に良い変化が生じたと感じる	患者に良い変化が生じたと感じる	患者さんが元気になっていく様子を見る
		患者さんの回復に関わる
病棟看護師のケアに変化を生じさせる期待を感じる	病棟看護師のケアに変化を生じさせる期待を感じる	学生が患者に行なうケアは病棟看護師のケアをよくする期待感がある

も容易になると考える。

Ⅴ．結論

1．兼任の実習指導者がとらえた実習指導の「やりがい」として【学生の実習の様子から学びや成長を感じる】【学生が主体的に実習に取り組んでいる姿をみる】【学生が達成感や満足感を得て実習を終える姿をみる】【実習指導の成果が就職につながると感じる】といった「学生の変化や成長」に関わるやりがい、【実習指導者が看護師を目指したころの気持ちを思い出す】【実習指導者自身が学び直す機会となる】【実習指導者が実習の指導方法が分かる】といった「実習指導者自身の成長」に関するやりがい、【患者に良い変化が生じたと感じる】といった「患者への良い影響」に関するやりがい、【実習指導を通じて身につけた様々な教育的な関わり方は新人看護師やスタッフ教育に活かせる】【病棟看護師のケアに変化を生じさせる期待を感じる】といった「看護の質の向上」に関するやりがいが明らかになった。

2．今回明らかになった「実習指導のやりがい」を実習指導者は病棟看護師に伝えるとともに、「気づくことができるよう」に関わることが、より効果的に実習指導を行う人的環境調整のための方略の一助となる可能性があることが示唆された。

Ⅵ．研究の限界と今後の課題

今回の研究結果は、研究対象となった 2 施設における特徴であり、一般化には限界がある。

謝辞

本研究のインタビューにご協力いただいた実習指導者のみなさまに深く感謝いたします。

本研究は平成 25 ～ 26 年度の山口県立大学研究創作活動助成を受けて行った研究の一部である。

文献

1）足立はるゑ、堀井直子：臨地実習指導サポートブック、大阪、メディカ出版、6-12、2013.

2）山田聡子、太田勝正：看護教員が期待する臨地実習指導者の役割　フォーカスグループインタビューに基づく検討、日本看護学教育学会誌 、20（2)、1-11、2010.

3）石崎邦代、池田正子：臨地実習指導者がかかえている指導上の困難とその支援　実習指導者へのアンケート調査より、日本看護学会論文集：看護教育、38 号 、228-230、2007.

4）山根美智子、渡邉カヨ子:急性期病院における看護学生への実習指導に対する看護師の思い、獨協医科大学看護学部紀要、5（2)、61-73、2011.

5）原田恵子、持田容子、片山弥生、甲斐みどり：看護系大学生の臨地実習に初めて関わった実習指導者のとまどい、日本看護学会論文集：看護教育、42 号、72-75、2012.

6）尾崎幸代：文献研究から考える臨地実習指導者の抱える不安と必要な支援　2003年から2010年の文献を対象として、神奈川県立保健福祉大学実践教育センター看護教育研究集録: 教員・教育担当者養成課程看護コース、37号、140-147、2012.

7）関 義和：実習指導に携わる病棟スタッフの認識とサポートの必要性、神奈川県立保健福祉大学実践教育センター看護教育研究集録:33 号、77-83、2008.

8）前掲載５）

9）前掲載１）22-38

10）中井俊樹：看護現場で使える教育学の理論と技法、大阪、メディカ出版、60-69、2014.

11）松本光子：看護学臨地実習ハンドブック、改訂 4 版、京都、金芳堂、11-13、2014.

12）藤本美由紀、丹佳子、佐々木満智子、家入裕子、中谷信江、井上真奈美、田中愛子：
実習指導担当看護師へのインタビューに基づいた臨床実習指導ガイドブック作成の試み、日本公衆衛生学会総会抄録集、74 回、497、2015.

13）金子美香子、鈴木のり子、菅野寿美子：臨地実習指導者の指導に対する意識　やりがいと関心度 , 自信度 , 負担度の関係、日本看護学会論文集：看護教育、36 号、227-229、2005.

14）滝口美香、渡邊貴子、橋本美穂、後藤茂樹、押領司民、河西光子、森川三郎、山本富士子、浅川歩、棚本知砂美、田代匡純：臨地実習における実習指導者のやりがい、日本看護学会論文集：看護教育、46 号、167-170、2016.

15）川野雅資：臨床教育に活かす人間関係論、大阪、関西看護出版、103、2007.

16）井上真奈美、田中愛子、中谷信江、家入裕子、佐々木満智子、丹佳子、藤本美由紀、張替直美:

看護学臨地実習の指導体制の現状と看護管理者が捉える課題―A 県における実態調査より―、山口県立大学学術情報、第 8 号、43-49、2015.
17）栗谷亜紀、灘波浩子、岡本恵里：看護学実習における看護師としての指導行動に対する自己評価および実習受け入れに対する捉え方、三重県立看護大学紀要、19 巻、31-41、2015.
18）中谷信江、丹佳子、家入裕子、藤本美由紀、佐々木満智子、張替直美、井上真奈美、田中愛子：実習指導が効果的に行われるための臨床指導者の工夫、日本看護科学学会学術集会講演集、34 回、403、2014.